

1. まちづくり方針

北千里のまちの価値・暮らしの質を高める新しい拠点づくり

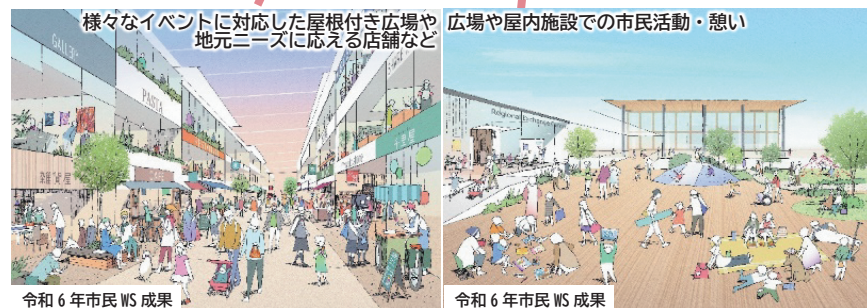
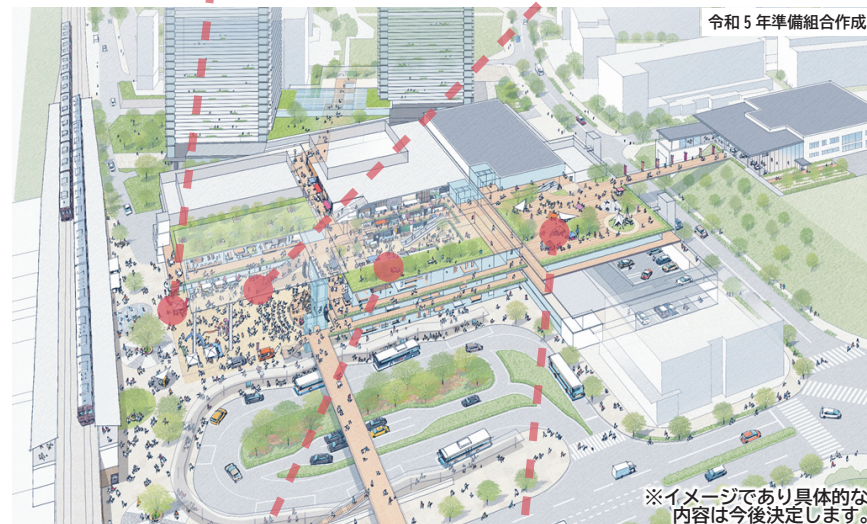
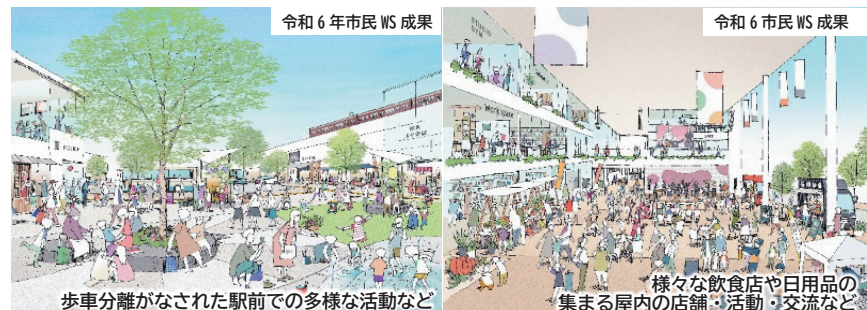
人が中心のまちづくり

①多様なアクティビティ・居場所のある拠点

②多様なニーズに対応できる拠点

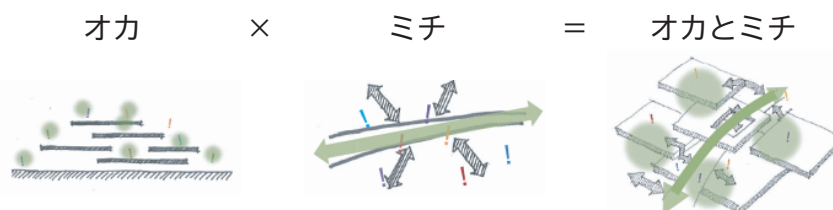
③みんなが来やすく使いやすい拠点

2. まちづくり計画の概要



3. 設計コンセプト

多様なアクティビティが生まれるオカ（多様な用途や広場等）とまちの人が集うミチ（歩行者回遊動線）を空間整備の基本とし、これらオカとミチを再整備後に必要となる地区センター機能・用途と一体的に整備を行います。

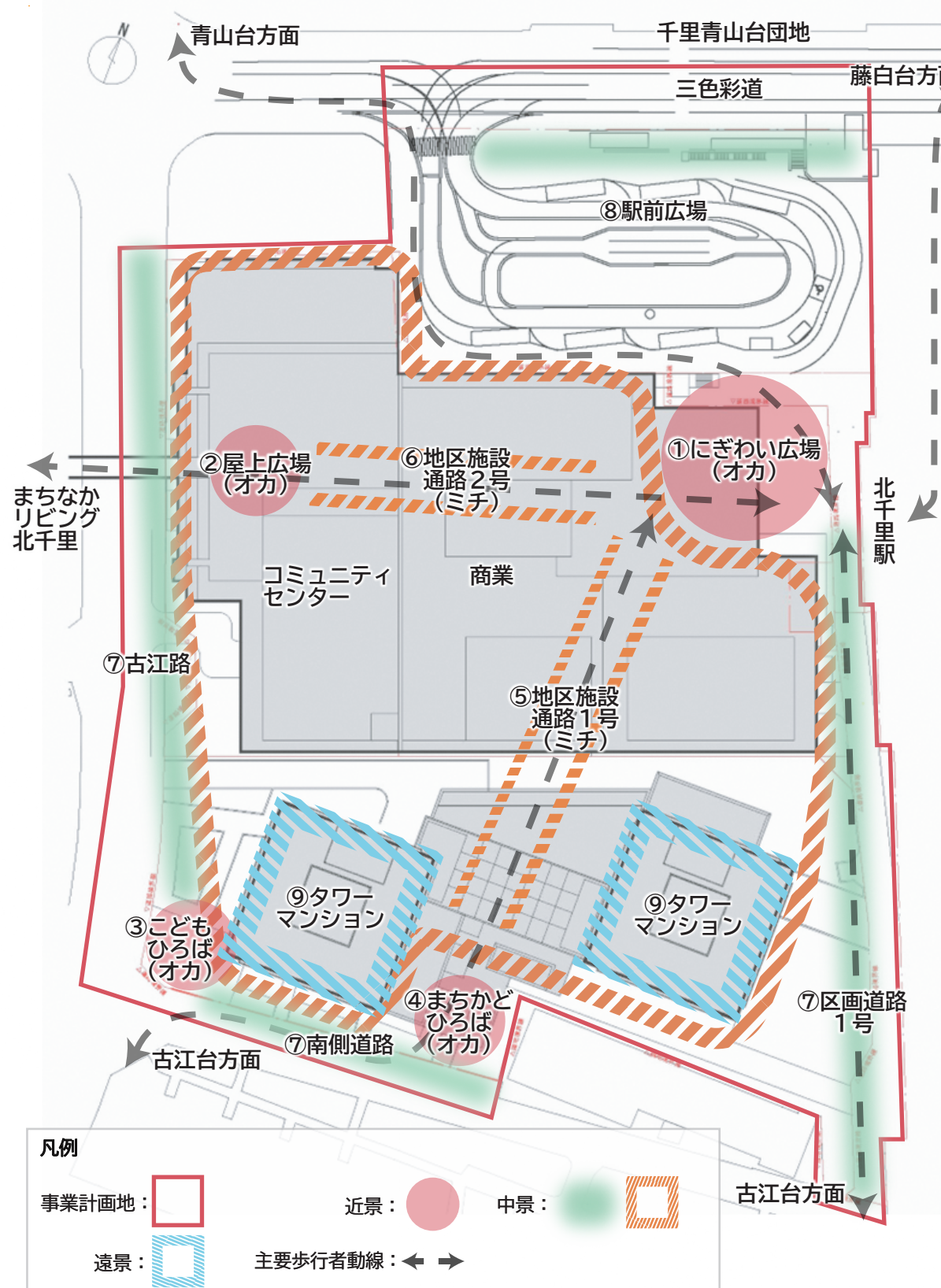


4. 地区全体として景観上大切にする内容

本事業では、人が中心のまちづくりとして、多様な人々のアクティビティが生まれるオカとまちの人が集うミチをコンセプトとして、整備を行います。景観に関する基本的な考え方として、施行区域内にとどまらず、周辺とのつながりや各場所の個性を大切にし、また、近景・中景・遠景それぞれの景観要素・特性も大切にしながら、これらの主たる景観要素を組み合わせ、全体としてまとまりのある豊かで生き生きとした景観創出を図ります。

主たる各景観要素においては、次に掲げる事項を景観形成の基本方針とします。近景では、立地特性に応じた人々の活動・交流・憩いといった多様なアクティビティを中心とした生きた景観を創出します。中景では、立地の特性においては区域外の環境・つながりも考慮し、まちになじんだ一体性のある沿道空間を千里ニュータウンの資源である緑をベースとして創出します。遠景では、千里ニュータウンの都市計画的性質から、将来にわたり高層建物の建設が考えられにくいことを踏まえ、遠景では建物の中高層部の立面形状・色彩計画について、周辺からの見え方を考慮の上、デザインすることにより、周辺に配慮した景観とします。

5. 主たる景観要素と全体景観計画



6. 全体計画の主要景観ポイント

①にぎわい広場 / 景観要素：●□

交通結節点であり、東西南北のミチが交わる場所に位置する北千里駅前における最も人が往来する拠点です。大屋根のある全天候型のにぎわい広場を中心に、日常的な憩い・滞留に加え、地元住民や学生等が参加する各種イベントなど、多様で変化のあるアクティビティにより、生きた近景を創出します。さらに、中景からの視点も考慮した大屋根や施設のデザインを組み合わせることで、北千里の顔となる景観を創出します。

②屋上広場 / 景観要素：●

北千里駅からまちなかりビング北千里をつなぐ、施設の主要動線である東西のミチの端部に位置し、吹田市公益施設（コミュニティセンター）にも隣接しています。まちなかりビング北千里、コミュニティセンター、商業施設等を利用する人々にとっての憩いや活動・交流を育む場として、にぎわい広場よりもゆったりとした、生きた近景を創出します。

③こどもひろば / 景観要素：●□

地区センターの南西端にあり、住宅地と接する部分で、本事業で建設するタワーマンションの足元に位置しています。新たに整備する建物の壁面位置を現在の壁面位置より後退させることで生み出されたオープンスペースに、こどもひろばを配置します。地域のこども達が、みどり等の自然を身近に感じながら遊び・過ごせる場となるように配慮しつつ、地域の交流・憩いの場としてもコミュニティ型のゆるやかな生きた近景を創出します。また、中景からの視点も考慮した敷地内沿道緑化や施設低層部のデザインを組み合わせることで、良好な住環境との調和にも配慮した景観を創出します。

④まちかどひろば / 景観要素：●●□

地区センターの南端部にあり、住宅地とつながる部分です。本事業で建設するタワーマンションの足元に位置し、商業施設や駅利用者を含む地域住民の生活動線にあります。周辺地域住民の日常生活の延長線にある憩い・滞留型のアクティビティを中心に、人の顔が見える、ゆるやかな生きた近景を創出します。また、中景からの視点も考慮した敷地内沿道緑化や施設低層部のデザインを組み合わせることで、良好な住環境との調和に配慮しつつ、みどり豊かで南北のミチの顔にもなる景観を創出します。

⑤地区施設通路1号（南北のミチ） / 景観要素：□

北千里駅・駅前広場・にぎわい広場といった人の往来拠点から、地区センター南端部のまちかどひろばをつなぐ部分に位置し、街区中央部を通る動線です。駅前の都市的な環境から、古江台側のみどり豊かな住宅地的環境へと移り変わることを考慮し、通路1号と一体的に両側の施設をデザインします。建物形状や施設の地先利用等を含めた沿道空間の形成により、ウォーカブルな沿道景観を創出します。

⑥地区施設通路2号（東西のミチ） / 景観要素：□

北千里駅・にぎわい広場といった人の往来拠点から、屋上広場・まちなかりビング北千里をつなぐ部分に位置します。事業計画地内外の地形の高低差を踏まえ、立体的な歩行者動線とします。駅前や商業施設のにぎわいに加え、コミュニティセンターや屋上広場における地域活動・交流の要素を考慮し、通路2号と一体的に両側の施設をデザインします。建物形状や施設の地先利用等を含めた沿道空間の形成により、ウォーカブルな沿道景観を創出します。

⑦古江路・南側道路・区画道路1号 / 景観要素：●●□

事業計画地の囲う外周道路です。建物のセットバックにより、事業計画地内の各敷地低層部をつなげて一体的な建物デザインや敷地内を緑化します。さらに、それぞれの路線の立地特性や隣接街区の状況を考慮した景観とすることで、個性豊かでみどりあふれる沿道景観を創出します。

⑧駅前広場 / 景観要素：●●

三色彩道（幹線道路）に面した場所に位置しています。駅前広場をこの位置に整備することで、三色彩道との間にオープンスペースを創出し、そこに地域の重要な景観資源・レガシーである三色彩道に繋がるよう緑化することで、みどり豊かな沿道景観を創出します。

⑨タワーマンション / 景観要素：●●□□

事業計画地の南側中央部に位置します。中高層部（タワーマンション部分）は、敷地境界からできるだけ離して配置することで、近景・中景での存在感を抑え、沿道や周辺住宅地から眺めた時の圧迫感が軽減されるよう景観に配慮します。一方、遠景では、千里ニュータウンの都市計画の特性上、将来も周辺から視認される建物となるため、中高層部分の立面形状や色彩は落ち着いたシンプルなデザインとし、周囲に調和した景観とします。さらに、中高層部のデザインは、足元の近景・中景と一体感のある景観を創出します。